

# 映画新聞

## アンケート特集

福岡県八女市 おりなす八女  
完成報告試写会  
2017年  
9月27、28日  
上映



おりなす八女にて  
2018年11月11日上映

◆青春、成長、葛藤、輝き、汗、涙…全てがつまりにまついて最高でした。野球のシーンでは砂のおいがしたし、演劇のシーンでは体育館の床においがしました。真面目にやると面白くない、かっこ悪いと指をさされ、ふざけると怒られるあの年代、純粋に1つのことに打ち込む彼らの姿は輝いていました。たっくさんの人に観てほしいと思いました。(10代女性)

◆青春を感じました。とてもよかったです。甘酸っぱいような涙臭いような、でも誰もが経験した事のあることが、ここにあったなと思いました。(20代女性)

◆時間があつという間に過ぎた。地元の有名な場所が出たり、好きな野球のシーンがたくさんあったりと、とても楽しく観ることができた。高校生の純愛シーンもあつて少し感動した。(40代男性)

◆作り手の想いが伝わってくる映画でした。せつなく良い映画なので、大事なシーンで流れるBGMをもう少し工夫してもらえたらもっと良くなると思いました。主題歌が映画に合っていて盛り上がる。(30代女性)

MOVIE NEWS

10月31日(木曜日)

### 号外

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」製作配給委員

〒834-0047  
福岡県八女市稲富111-1  
電話/FAX:0943-24-9061  
email:koushien-642@hi3.enjoy.ne.jp

発行人:鈴木一美  
編集:白石ルリ子  
高尾美由紀  
稲富朋子



◆普通ドラマやアニメではラストの着は撮らなくても、エンドロールが終わった後に部屋にトロフィーや雑誌のページに勝敗などが残って勝ったんだと思うけど、この作品はそれが無いので変わっているなと思いました。最初の試合のシーンでは点を多く取られてしまった事で焦っていて、重い雰囲気が流れていたけれど、最後の試合のシーンでは、明るく前向きに頑張っていた所が心に残っています。妹に観てもらいたいです。なぜなら、妹は自分が気に食わない事や苦手なことにあまり向き合おうとしないから。(当時高校2年生 女性)

◆練習試合に出られなかった望月が、八幡監督に「演劇部を辞めさせてください。」と言ったときに、監督が「お前、何も変わらんな」「それが出来んなら、ここにしてお前の居場所はなぞ」と言ったシーン。

Q 一番に残るシーン・言葉は?

◆練習試合に出られなかった望月が、八幡監督に「演劇部を辞めさせてください。」と言ったときに、監督が「お前、何も変わらんな」「それが出来んなら、ここにしてお前の居場所はなぞ」と言ったシーン。

◆最初は面白くないだろうなと思ったけど、八女市の風景や出演者さんたちの演技にみとれました。何かに夢中になりたいと思いました。(当時高校1年生 女性)

◆最初は誰かが映ったとかはしきよったけど、だんだん観ているうちに少し自分と重ねて観ていた。俳優さんの演技がすごかった。途中で自分が映っていたので嬉しかった!でも自分が出演しているところがカットされていたのは悲しかった。(当時高校3年生 女性)

◆単なる野球、演劇の映画というだけではなく、あらゆる部分で非常に勉強になりました。学校などへの教育映画にもなっている部分も感じることが出来ました。(20代男性)

◆私は当時九州担当でしたし、原作の本も読んでいたので、よく映画化にして頂いたと感慨深く、懐かしくも思いながら鑑賞させて頂きました。内容も仲間の大切さや信頼関係、人間としての成長する過程がわかり、この映画で共感し勇気付けられる若者も多いと思います。(40代男性)

◆大変心に届くメッセージを頂きました。主題歌もすごく良かった。若い時の経験は一生の宝物です。人とぶつかり合い成長していく姿はとても美しい。そんな経験をこれからの若者にもしてほしいと思いました。(年代秘密 女性)

◆笑わせようと思っても面白く、テンションが低い状態で観入ってしまいました!熱演と福岡の方々の尽力にも感動しました。(30代女性)

◆実際にエキストラとしても参加させて頂いたので思い入れのある映画となりましたが、それ以上に内容が感動的で「いいのを見せてもらった」という気持ちになりました。さすがにいい感じがとても良いです。「ここで終わりにやない、スタートなんだ。」という主人公の言葉。人生における様々なことは1つの終わりが次へのスタートへとつながっていくんだと実感できました。経験は人を成長させる。この映画は何か必死になることを知った若者の成長記録だと思います。(50代女性教諭)

◆続きが気になるような形で終えたのでその先が気になります。教材にもなるような内容で、若者から大人まで幅広い年齢で興味を持って映画だと感じました。(20代男性)

◆観終った後のすがすがしい気持ち...出演者の(特に若い人達の)熱演に、自分の中の青春がよみがえった気がしました。(60代女性)

◆子供達に観てほしい内容でした。チームワークや他の人を思いやる優しい気持ちなど学んでほしいことばかりでした。(60代女性)

◆映画はすごく良かったのですが、竹島由美子先生の舞台挨拶を聞き、より一層感動しました。実話である重みも感じました。(年代秘密 女性)

◆観終った後のすがすがしい気持ち...出演者の(特に若い人達の)熱演に、自分の中の青春がよみがえった気がしました。(60代女性)

◆子供達に観てほしい内容でした。チームワークや他の人を思いやる優しい気持ちなど学んでほしいことばかりでした。(60代女性)



熊本県山鹿市『八千代座』にて2019年2/21上映

◆エースの望月が演劇部の舞台に立つことになったことで、何に気づいていくのかが興味深く描かれていて、観たあと気持ち良い映画でした。望月と音響担当の無口な生徒との交流も部活動で得られるもの大切さを教えてくれる。中山監督は「ブリキの勳章」(1981年)、「セイリング海にははたけ」(1999年)など中学生、高校生を描いてきた実績があり、さすがと思わせる出来栄でした。(60代男性)

◆観終った後のすがすがしい気持ち...出演者の(特に若い人達の)熱演に、自分の中の青春がよみがえった気がしました。(60代女性)

◆子供達に観てほしい内容でした。チームワークや他の人を思いやる優しい気持ちなど学んでほしいことばかりでした。(60代女性)



あきた十文字映画祭 2019年2月11日上映

◆大人になっても、やりたくないことをやらなければならない場面はどうしてもあります。それでも、最後までやりきることに本気でやることを気づかされました。(20代女性)

鹿児島県  
純心女子中学・高等学校

2019年  
1月31日  
上映

私が考えた「映画で大切なこと」は？

◆登場人物のキャラクター設定です。

その理由は、登場人物の映画の中の心情の変化がよくわかるからです。出てくるキャラクター一人一人の特徴がはっきりしていることで、その人物の成長が目に見えてくるし、感情移入がしやすくなると思います。今日の映画の中で言えば、例えばキャラクターの少し馬鹿げただけの人を思いやる優しい性格や、主人公の望月君の感情的になりやすい性格のことです。また、やりこなす性格、みおちゃんの怒りっぽいけど演劇に対する熱心な気持ちを秘めている性格など、一人一人のキャラ設定が明確であることにより、印象にも残り、変化がよく見えて楽しいと思います。

◆コミュニケーション。具体的には、様々な人の協力のためだ。

その理由は、舞台の町の地元の人やその町への協力を求めるときに、きちんとコミュニケーションが大切だからだ。役者さん、スタッフにどのようになりたいか、して欲しいかを伝えるためにコミュニケーションが必要になり、伝わり方によって、ガッツと変わってしまうからだ。コミュニケーションが映画を作るうえで大きく左右してしまうと考えるからだ。

◆映画を吟味することだ。しかも長い期間、他人の目を使って。これが一番大切だと思う。

その理由は、たくさん悩んでも分からないことがたくさんあり、一人では気が付かないこともたくさんあるからだ。この大切なことを、吟味することをしないと「大切なこと」にならないのだ。人は、今日と明日、今と未来で感覚が大分変わっていく。時間をかけたほうが様々な視点で見れるのだ。そこに他人の目が入ってくれば視点は更に多彩だ。そうして映画は完成していくのではないかな。

生徒からお礼の言葉

◆ステキな映画とその裏話をありがとうございました。裏話まで映画のよさを伝えてくれて、自分たちの将来にもつながりがありました。ありがとうございました。

◆私の映画に対する考えがガッツと変わりました。みんな自分の将来にもつながりがありました。

福岡県立福岡高等学校  
PTA教育研修会

2019年  
6月22日  
上映

◆色々な思いが自分に重なって、共感する場面があり、考えさせられる映画でした。望月君が変わって行く様子や周りも変えていく様子があったです。八女の景色が見えてとてもよかったです。

◆子育てにも役立てると思ったし、自分にも当てはめ考えさせられ、とても良かったと思います。家族にも観せたいと思いました。有難うございました。

◆自分に欠けていることに気付いていくまでの過程をいねいにあらわされていて、感動できる映画でした。

◆私は何回か観ました。観れば観るほど味がある映画です。子供たちには仲間や教師、周りの方々との関わりで成長していくのだから、とても良い映画だと思います。もっと多くの保護者にも観てほしいです。

◆人とのつながりが自分を変え、またその自分が人を変えていく、とても感動しました。子供たちに青春の時期に観てもらいたいという思いがありました。始まる前の先生からの話があったからの鑑賞だったので、余計に良かったです。

秋田県大仙市立  
大曲西中学校

2019年  
7月3日  
上映

◆この作品はいろいろな人の「葛藤」が描かれていました。野球部の3人は、大会が近いのに演劇部に入り、演劇部の人は、演技に慣れない3人が入ってきて、教えることが大変だろうななど思いました。その裏で生徒たちを支える大人などの心情がすくく伝わってきて、この作品はいろいろな人の思いが交差してきているなと思います。一人で頑張ることとみんなで頑張ること、達成感が違うと思います。一人で一つのことを成し遂げても、みんな協力して成し遂げたほうが嬉しさや達成感も倍になると思います。今回はこのような素敵な機会を設けて下さり、ありがとうございました。

(中学2年 品川瑞稀)

◆いろいろなハプニングなどがあって面白い映画でした。一番最初の場面では野球に打ち込んでいたエースが演劇部に入り、最初は仲が悪く



てみんなが集中してやれなかったけど、どんどん仲が深まっていくことに、みんな仲良くなったことがとても印象に残ったし、実際に演劇の場に立つて演技をやった感じがとても伝わってきました。嫌なことがあっても周りの友達も助けてくれるというところもとても伝わってきました。僕も何事にもあきらめない気持ちで頑張りたいと思いました。

(中学1年 伊藤葉琉)

◆今回の映画を観る前に「葛藤」というものについて、争い合うことしか知らず、具体的な内容までは知りませんでした。しかし、この映画を通して、知ることが出来ました。一人一人が上へ行きたい、誰にも負けたくないと思うと「誰かのことを思って」よりも先に争い、対立し合うと思います。でもそれで新しい何かに気づくことが出来れば、それも悪いことではないと思います。一つのこと打ち込み、一生懸命になることはいいことだと思います。でもそれだけ大切な何かを忘れてしまったとすると、それを見つけないとすれば前に進むことはできないと思います。そんな中、この映画では演劇部に入りそれを見つけない面白さ、トリーでした。様々な人がたくさん色んな「葛藤」の中もがき続け、チームメンバーの大切さを改めて教えてくれるとてもいい映画でした。今後生きていく中で何かを見失ってしまったときこの映画を思い出して、「葛藤」の中もがきうまく前に進めるように頑張りたいです。

(中学3年 武田穂香)

◆先日はお忙しい中、講演して頂きありがとうございました。実は私、映画観賞が趣味でジャンル問わず何でも観ます。なので今回のPTA講演会もとても楽しみにしていました。私の息子も野球部で左投手のポジションは、ピッチャー。自然と主人公が重なりました。映画の中の彼らのように何かに必死に打ち込み、悩み、葛藤する、そういう青春を息子も仲間と共に過ごしてもらいたいと思いました。公式サイトを拝見して鈴木さんが八女市に移り住み、市民の皆さんに映画製作の理解と協力を得て成り立った映画なのだということを知り、改めてプロデューサーという仕事の本気を垣間見ました。素晴らしい仕事です。これからも応援しています。

(保護者 今野 藍)



熊本県立熊本西高等学校女にて  
2019年9月27日上映

北九州映画サークル協議会  
イオンシネマ戸畑・小倉昭和館会

2019年  
7月21, 22日  
上映

◆とてもさわやかな映画になっていて嬉しく思いました。子どもを主人公にする、福岡の民主教育が生きた実践。市も県も応援していて、それも嬉しかったです。

◆事実を受け入れること、チームメンバーを大切にすること、仕事をしても大切なことが沢山あった。笑いもあって良い作品だったと思う。

◆野球部員に演技が出来るのだろうか？と思っただが中々なもの。若さは無限ですね。高校生は成長するものです。とてもよかったです！

◆もっと堅苦しい映画かと思いましたが、軽みもあって大いに笑わせてもらいました。晴れやかな青春映画になっていました。

◆今まで逃げてたんですね。私もいやな事は逃げてますけど。大事な所はぶつかっていかないといけないですね。分かっているもなかなか実行できないです。

◆さすがに素晴らしい作品でした。若者のキラキラ輝く姿がしっかりと描かれていて、はるか遠い昔、青春時代を思い出させるような出来た作品です。海外の賞レースに出なくても良い作品はないと思います。皆さんに観て欲しい。そんな作品でした。

◆若いっていいですね。何度でもやり直せる。野球一筋の姿とタフな胸が熱くなりました。孫にも野球バカにはなってほしくない。ぶつかって傷ついてこその中から学び前に進んでほしい。

◆八女の茶畑や電照菊ハウスが印象的でした。エースの顔つきが段々変わっていくところが微妙で楽しく思いました。

◆いつも思う。野球でも映画でも小さなサークルでも、主役にならなかつた人、出られなかつた人、出たかたたらうな。どんな気持ちでそれを見るのだろうか。この若者達もその葛藤を抱えながらたくましく成長していく、とても清々しい映画でした。

秋田県立大曲農業高等学校  
教員試写会

2019年  
7月23日  
上映

◆福岡県八女市の豊かな自然環境と空気がスクリーンから伝わってきました。

◆茶畑やイチゴ栽培、電照菊栽培などの場面を取り入れたことで、八女市の農業も理解でき興味を持ちました。また、イチゴが青春の甘酸っぱさと重なり、菊が人の生き方を示唆する素材となり、青春メッセージが満載でした。

◆主人公のギラついた目力が印象的で、他の野球部員や演劇部員もストーリーの中で、心の葛藤と戦いながら、それぞれが成長していく姿が伝わりました。

◆人それぞれに、きらりと輝くものや欠けているものがあり、それに気づかせることの大切さを(先生)監督/演劇部のOBの言動から)知ること、教わることで、大人の方々にも観てもらいたい作品である。↓中高生は無論、中高生を持つ親、さらには先生方や中高生に関わる指導者はじめ、一般の大人にも観てもらいたい映画である。

(大仙市教育委員)

ドリ。パス再上映  
リクエストランキングサイト

◆上映候補入りおめでとうございます！どの地域でも上映してほしいです。観ていない方がなるべく観たいなと思います。そして、どうか北海道でも、難しいかもしれないですが、上映を検討してほしいです。なかなか遠征が来ず、東京近辺などには観に行くのが難しいです。どうかお願い致します。

◆地味なことだけどキチンと野球経験のあるメンバーが野球を再現しているの、厚みがあります。フィールドプレーもしっかり野球。

メンバーが野球顔だったし。授業で、芥川が読めなかったり、脚本読むため辞書引いて、『葛藤』を調べたり。高校×部活×ボーイミーツガール×友情の王道映画。何度見ても、爽やかに泣けます。心洗われて、明日から元気に生きていけると、120%保証いたします。



◆前回運よく大阪で観ることができましたが、いろいろと学ぶことのできる映画だと思えます。しかも説教臭くない！俳優陣も若手から重鎮まで皆イキイキしていて、とても見応えがありました。

◆井の中の蛙であった野球部員達が、演劇を通して何を学べるのか。子供達にも是非観てあげたい作品です。そして、演者、スタッフ、地元の方々の想いが沢山詰まった作品。多くの方に観て欲しいです。

◆野球をやっている人はもちろん、スポーツをやっている方には是非観てもらいたいです。新人俳優をバックアップする経験のある俳優陣が作品に安定感を与えてくれます。

◆気になったのは女生徒がとても良い子すぎて先輩に従順。信頼の塊。きつと物語以前に田川先輩ともチャアダンばりのゴタゴタがあったはず！と想像するのが楽しい。音響のサトシが良い味出てる。役が付かなかった子にもさりげなく気遣う先輩。優しい。

◆とても良い映画でした。甘酸っぱくちよつと恥ずかしく青く何もかも吸収できる時間。自分の高校時代を振り返りほんわかした気持ちになりました。遺都君が出る度度心の中でひゃー！と叫びながら熱演を鑑賞。時に激しく時に温かい林遣都の芝居が堪能できます。

◆内容は明快かつ、深い。青春真っ只中な人も、はるか彼方を通り過ぎた人も(笑)誰しもの心にはほつくり刺さる映画だと思います。地方発らしい、ありのままの佇まいが美しい！もっと広まってほしい！



Twitterの感想